

第8室

(5) 9:30 ~ 10:00 (6) 10:10 ~ 10:40
(7) 10:50 ~ 11:20 (8) 11:30 ~ 12:00

第8室 (5)

MET 60/kMET 得点と TOEFL iBT 得点との相関：初期研究

陳 韻雯 (岐阜大学大学院生)・牧 秀樹 (岐阜大学)

英語圏への留学には、TOEFL iBT の得点はその大学が定める基準点に達している必要がある。しかしながら、TOEFL iBT は、その受験料は、235ドルであり、2万5千円程度かかるため、大量のデータが、これまで得られなかった。そこで本調査では、中国人英語学習者で、既に TOEFL iBT を受験し、その得点を保持している学習者を34名集め、2種類の MET を実施した。これまでの著者グループの調査結果 (牧 (2018)) に基づき、本調査の仮説を「MET 60/kMET 得点と TOEFL iBT 得点の間には、統計的有意な相関があるはずだ。」とした。

2021年7月より10月の間に、既に TOEFL iBT を受験し、得点を保持している中国人英語学習者34名に、MET 60と kMET を実施した。MET 60/kMET は、それぞれ、3分/5分程度で、CD から流れて来た音声を取り、空所に、聞こえてきた語を正確に記入するテストである。

分析の結果、MET 60/kMET 得点と TOEFL iBT 得点との間に、統計的有意な相関があることが分かった。それぞれの相関係数は、 $(n=34, r=.51, p<.01)$ と $(n=34, r=.58, p<.01)$ であった。次に、MET 60/kMET の信頼性を調査した。その結果、それぞれの Cronbach α の値は、.87と .83であった。したがって、Cronbach の α 係数が .8以上であったことから、両最小英語テストは、信頼性があるテストであることが分かった。

この結果から、MET 60にしる、kMETにしる、MET 得点と TOEFL iBT 総合得点との間に統計的有意な相関があるということが明らかになった。したがって、仮説 (1) は、確証された。このことから、高額な TOEFL iBT を実際に受験する前に、MET を受け、TOEFL iBT で獲得できる得点をあらかじめおおむね予測することが可能になった。

第8室 (6)

SNS X

高等学校における「聞くこと」の CAN-DO リストの改善

—CEFR-J に基づいたリスニング・テストの結果から—

宗倉 祐 (長野県上田高等学校)・菊原 健吾 (長野県上田高等学校)

文部科学省 (2013) は、全国の中・高等学校で卒業時の学習到達目標及びそれを達成するための学年ごとの目標を CAN-DO リストの形で設定することを求めている。著者らが所属する高等学校 (A 高校) では、2018年に卒業時の学習到達目標を「学習者向けの素材から、書き手、話し手の意図を的確に理解することができる」、「英語を用いて自分の考えを論理的に書いたり話

すことで伝えることができる」と設定した。それを達成するための学年ごとの目標として、第3学年には CEFR (Council of Europe, 2001) の C1/C2 レベル、第2学年は B1/B2 レベル、第1学年は A1/A2 レベルに相当する CAN-DO リストが作成された。しかし、このリストは作成以降 A 高校の生徒にとって適切か検証されていない。そこで本研究では、CEFR-J (投野, 2012) の CAN-DO ディスクリプタに基づき作成されたリスニング・テストを1学年と2学年で実施し、A 高校当該学年の聞くことについての CAN-DO リストが適切か検討し改善を行った。

A 高校の1学年の生徒317名と2学年の生徒307名がリスニング・テスト (CEFR-J CAN-DO テスト: サンプル版 Version 1.0 を一部改変) を受験した。計15問で、CEFR-J における A2.1 (4問)、A2.2 (5問)、B1.1 (2問)、B1.2 (2問)、B2.1 (2問) レベルと想定される問題で構成された。回答について正答を1、誤答および無回答を0とし、ラッシュ・モデル分析を行った。

分析の結果、生徒全体の能力推定値の平均値は0.39、標準偏差は0.91であった。1学年と2学年に分けると平均値がそれぞれ0.24と0.53であり、標準偏差がそれぞれ0.82と0.53であった。また、項目難易度の平均値は0.00、標準偏差は0.83であった。レベルごとの項目難易度の平均値は、A2.1が-0.08、A2.2が0.32、B1.1が-1.16、B1.2が-0.47、B2.1が1.00であり、想定された難易度順と一致しなかった。以上の結果から、特に1学年の目標は、A1より高いレベルの CAN-DO リストが適切であると考えられる。本発表では、より詳細な分析及び結果と、それに基づく A 高校の聞くことの CAN-DO リスト改善案を報告する。

第8室 (7)

CAN-DO リストの活用の在り方

矢野 司 (安曇野市教育委員会)

本研究は、令和3年度英語教育改善プランの各都道府県の取り組みを参考に、CAN-DO リストをどのように設定し、活用していくことが教員や児童・生徒にとって有効なのか視点を明らかにすることを目的とする。

安曇野市では、「安曇野市 教育・学校の将来構想」として、「安曇野市コミュニティスクールの構築」、「小中一貫教育の導入」、「安曇野の時間 (仮称) の創設」を重点三項目として掲げている。その中で、小中一貫教育については、小中学校の教育活動が機能し、子ども達の健全な心身の発達や学力を育むために、子ども、教師、地域の協働体制の構築が求められる。2022年度より安曇野市教育委員会指導主事として勤務する筆者は、安曇野市の英語教育の実態を把握するために安曇野市内の英語教育に関わる職員を対象に英語教育アンケートを実施した。その中で、各学校で児童・生徒の実態に応じて CAN-DO リストを設定している学校は少なく、教科書の資料を参考にしている学校が多いことが見えてきた。

そこで、令和元年度実施された「英語教育実施状況調査」の「パフォーマンステストの実施状況」の割合が高かった都道府県が、CAN-DO リストをどのように活用しているのか英語教育改善プランを基に把握し、教員や児童・生徒にとって有効な CAN-DO リストの在り方について考え、今後の推進に役立てていきたい。

ニーズ分析の観点から見た授業アンケートの効果とその実践

藤原 剛(山梨県立吉田高等学校)

ここ数年授業アンケートの効果的な活用による効用が、様々なところで示されている。中島ほか(2022)でも授業アンケートを実施した結果、授業改善につながったと述べられ、授業アンケートを通じた情報収集が教員にとってメリットがあることが分かった。

Brown(1995)ほか複数のカリキュラムデザインに関する文献で、ニーズ分析にページを割り、学習者のニーズについての情報を集めることが学習者の側にとってもメリットがあることを説いている。本実践では頻繁に授業アンケートを行い、生徒から授業についての質問を受けたほか、授業の進め方についての要望を聞いた。そして授業開始から1か月が経過し、授業アンケートが英語の学習の促進に役立っているかを聞いたところ、大半の生徒が役立っていると答えた。複数の文献で述べられている、自分の声が尊重され、授業づくりに活かされていると実感することが学習者の動機づけにつながることを確認されたと言える。

本発表では、複数の文献からニーズ分析のあり方やその効用について述べられていることを整理し、それに基づいた実践の内容を、その効果とともに報告したい。